

明治十九年一月一日發行

大審院長從四位勳二等玉乃世履公題  
大學校教授從五位三島毅先生序

贅頭現行  
伺  
指令  
類聚  
內訓

# 大日本法類編

司法省權少書記官兼  
法學校長心得正七位  
司法省法學校等卒業生  
東京始審裁判所判事補

加太邦憲訂正  
小松恒編纂

刑法  
治罪法



△第一節	富籤賣買及牙保處分	百二十五丁
△第二節	米穀金銀貨現場ノ賣買 限月若ハ現場ノ賣買	百二十七丁
△第三節	朝鮮國行步規程違反	百二十八丁
△第四節	北海道ノ水產物取獲及製造	同丁
△第五節	北海道臘虎膾肭獸獵獲	百二十九丁
△第六節	投錨漁業採藻	同丁
△第七節	銃砲彈藥ノ所持及製造	百三十丁
△第八節	檣燈及舷燈ノ製造	同丁
△第九節	墓地及埋葬取締規則違反	百三十一丁
○第二欸	行政警察ニ屬スル者	百三十二丁
△第一節	賭博犯處分規則	百三十一丁
△第二節	密賣淫懲罰	百三十二丁
△第三節	各地方違警罪	百三十三丁

○第三類

○第一欸



△第一節	陸軍刑法	同丁
△第二節	海軍刑法	百六十二丁
○第三欸		
△第一節	陸軍刑法下 海軍刑法下 新舊比照	百九十七丁
△第二節	舊軍律下 普通刑法下 ノ新舊比照	二百丁
△第三節	罰金科料	同丁
△第四節	海軍準士官犯罪	同丁
	陸軍上等卒犯罪	二百一丁
	憲兵卒犯罪	同丁
○第三欸		
△第一節	軍人 軍屬 賭博犯罪處分細則	二百二丁
△第三節	軍人夜中ノ乘馬	二百四丁

○第六編

治罪

○第一類



○目次

○第一章

△第一節 治罪法

二百四丁

○第二章

○第一款

△第一節 書類送達外六項

三百三十四丁

△第二節 普通治罰法上陸海軍治罪法ト交渉事件ノ處分

三百三十六丁

△第三節 輕罪裁判所ノ管轄

三百三十八丁

△第四節 辨護人ヲ用非サル言渡

同丁

△第五節 豫審判事ノ訊問

同丁

被告人訊問時限

三百三十九丁

勾引シタル被告人

同丁

△第六節 違警罪即決例

同丁

○第二款

△第一節 豫審ヲ要セサル輕罪

三百四十三丁

△第二節 輕罪裁判所開廷

同丁

△第三節 警部檢事ノ代理

三百四十四丁

△第四節 巡查警部ノ代理

同丁

令狀

三百四十五丁

附豫審判事令狀ヲ巡查ニ帶行セシムル場合

三百五十一丁

附在外國公使館ノ内國人ニ發スル 令狀

同丁

△第五節 既決囚徒逃走者ニ對スル 令狀

三百五十二丁

△第六節 全逮捕狀發付手續

三百五十三丁

民事詞訟ニ關スル告訴

三百五十五丁

○第三款

△第一節 重罪裁判所區畫

三百五十五丁

△第二節 重罪裁判所長

三百五十六丁

△第三節 陪席判事補充判事

同丁

△第四節 換輕禁錮ノ命令

同丁

△第五節 輕罪控訴規則

三百五十七丁

高等法院ヲ開カサルルノ 裁判

三百五十八丁

- 第四款
  - △第一節 空治集治監囚人犯罪 三百五十九丁
  - 樺戶集治監囚人犯罪 同丁
  - △第二節 沖繩縣重罪犯 三百六十丁
  - 樺戶空治集治監囚人重犯罪 同丁
  - △第三節 集治監囚人訊問 同丁
  - 根室 同丁
  - 札幌 同丁
  - △第四節 裁判所治罪手續 三百六十二丁
- 第三章
  - 第一款
    - △第一節 無能力者法律上ノ代人民事擔當人 同丁
    - △第二節 海上路程ノ猶豫 三百六十三丁
  - 第二款
    - △第一節 巡查及兵員要求使用手續 同丁
    - △第二節 所在巡查使用 三百六十四丁
  - 第三款

- △第一節 書記局訟廷等掌務心得 同丁
- △第二節 公廷ノ取締 三百六十五丁
- 第四款
  - △第一節 裁判傍聽 三百六十六丁
  - △第二節 司法警察官ノ證人 同丁
  - 諸官吏ノ證人 同丁
- 第五款
  - △第一節 判事檢事書記印章 三百六十七丁
  - 各裁判所印章 三百六十八丁
  - △第二節 犯人證人ノ捺印 同丁
- 第四章
  - 第一款
    - 勅奏任官華族 犯罪 同丁
    - 帶勳有侍者 同丁
    - 帶勳者身分取扱 三百七十三丁
    - 帶勳者公權ノ屆出 三百七十五丁
    - 剝奪及停止 同丁
    - 恩給ヲ有スル者ノ屆出 同丁
    - 公權剝奪及停止ノ屆出 同丁
  - △第二節
  - △第三節

△第四節

恩給并扶助料ヲ有スル者公權剝奪及停止ノ通知  
醫師開業ニ關スル犯罪ノ通知  
三百七十六丁  
三百七十七丁

○第二款

被告人責付手續  
三百七十八丁

△第一節

保釋責付取締心得  
同丁

△第二節

商船内犯罪取扱規則  
三百八十丁

△第三節

在朝鮮國罪犯取扱規則  
同丁

○第三款

贓品下渡  
三百八十三丁

△第一節

沒收物件處分  
同丁

△第二節

同丁

○第五章

裁判言渡膳本費用  
三百八十六丁

△第一節

無資力  
同丁

△第二節

違警罪  
同丁

△第三節

旅費日當立替  
三百八十七丁

△第四節

送達賃錢繰替  
同丁

○第一類



裁判言渡本籍へ取調ノ通知及前科ノ取調  
監倉獄舎ノ破告手續  
證人等旅費日當渡方  
重運罪登記簿補正  
徵集箇條書  
三百八十八丁  
三百九十一丁  
同丁  
三百九十二丁

○第一款

監獄則  
四百七丁

△第一節

別房留置者  
四百五十三丁

△第二節

賭博犯人服役  
同丁

△第三節

換輕禁錮ノ執行  
四百五十四丁

○第三類



○第一章 陸軍

△第一節 陸軍治罪法

同丁

△第二節 罪犯取扱手續

四百七十三丁

○第二章 海軍

○第一款

△第一節 海軍治罪法

五百八丁

△第二節 罪犯取扱及行刑手續

五百三十丁

○第二款

△第一節 海軍東京附全監獄署條例

五百三十四丁

△第二節 鎮守府軍法會議附全監獄署條例

五百四十二丁

○第四類



○第一款

△第一節 陸軍監獄則

五百四十八丁

△第二節 陸軍監獄署官員服務概則

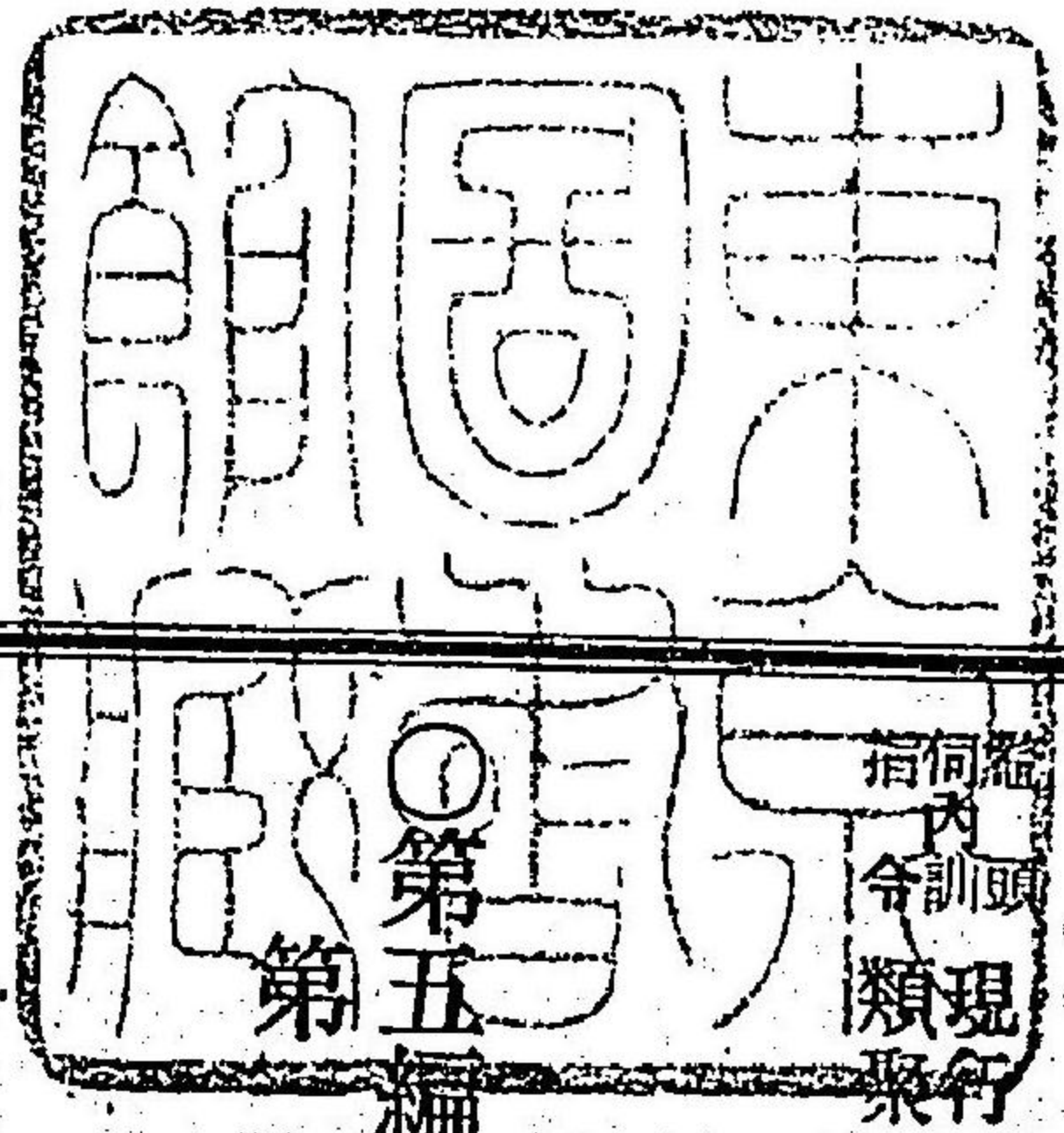
五百六十丁

○第二款

△第一節 海軍監獄則

五百七十九丁

指 同 龍 指 同 龍  
內 頭 內 頭  
訓 現 訓 現  
令 類 令 類  
聚 聚 聚 聚  
大日本六法類編 下編 刑法之部  
治罪法 目次大尾



大日本六法類編

下編 刑法之部

司法權少書記官兼  
司法學校長心得法學士  
司法省法學校一等卒業生  
東京始審裁判所判事補  
加太邦憲訂正  
小松 恆 編輯

○第五編

刑事

類 刑 法

○第一款

第一節 刑法

○十三年七月第三十六號布告  
刑法目錄

第一編 總則

第一章 法例

第二章 刑例

第一節 刑 名

第二節 主刑處分

第三節 附加刑處分

- 第四節 徵償處分
- 第五節 刑期計算
- 第六節 假出獄
- 第七節 期滿免除
- 第八節 復權
- 第三章 加減例
- 第四章 不論罪及ヒ減輕
- 第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕
- 第二節 自首減輕
- 第三節 酌量減輕
- 第五章 再犯加重
- 第六章 加減順序
- 第七章 數罪俱發
- 第八章 數人共犯
- 第一節 正犯

- 第二節 從犯
- 第九章 未遂犯罪
- 第十章 親屬例
- 第二編 公益ニ關スル重罪輕罪
- 第一章 皇室ニ對スル罪
- 第二章 國事ニ關スル罪
- 第一節 內亂ニ關スル罪
- 第二節 外患ニ關スル罪
- 第三章 靜謐ヲ害スル罪
- 第一節 兇徒聚衆ノ罪
- 第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪
- 第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪
- 第四節 附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪
- 第五節 私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪
- 第六節 往來通信ヲ妨害スル罪



- 第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪
- 第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪
- 第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪
- 第四章 信用ヲ害スル罪
  - 第一節 貨幣ヲ偽造スル罪
  - 第二節 官印ヲ偽造スル罪
  - 第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪
  - 第四節 私印私書ヲ偽造スル罪
  - 第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪
  - 第六節 偽證ノ罪
  - 第七節 度量衡ヲ偽造スル罪
  - 第八節 身分ヲ詐稱スル罪
  - 第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪
- 第五章 健康ヲ害スル罪
  - 第一節 阿片烟ニ關スル罪

- 第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪
- 第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪
- 第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪
- 第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪
- 第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪
- 第六章 風俗ヲ害スル罪
- 第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪
- 第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪
- 第九章 官吏瀆職ノ罪
  - 第一節 官吏公益ヲ害スル罪
  - 第二節 官吏人民ニ對スル罪
  - 第三節 官吏財産ニ對スル罪
- 第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪
  - 第一章 身體ニ對スル罪
    - 第一節 謀殺故殺ノ罪

- 第二節 毆打創傷ノ罪
- 第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪
- 第四節 過失殺傷ノ罪
- 第五節 自殺ニ關スル罪
- 第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪
- 第七節 脅迫ノ罪
- 第八節 墮胎ノ罪
- 第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪
- 第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪
- 第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪
- 第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪
- 第十三節 祖父母父母ニ對スル罪
- 第二章 財産ニ對スル罪
  - 第一節 竊盜ノ罪
  - 第二節 強盜ノ罪

- 第三節 遺失物理埋藏物ニ關スル罪
- 第四節 家資分散ニ關スル罪
- 第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪
- 第六節 贓物ニ關スル罪
- 第七節 放火失火ノ罪
- 第八節 決水ノ罪
- 第九節 船舶ヲ覆没スル罪
- 第十節 家屋物品ヲ毀損シ及ヒ動植物ヲ害スル罪
- 第四編 違警罪

刑法

第一編 總則

第一章 法例

- 第一條 凡法律ニ於テ罰ス可キ罪別テ三種ト爲ス
  - 一 重罪
  - 二 輕罪

三違警罪

第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルヲ得ス  
第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ  
輕キニ從テ處斷ス

第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適用スル  
ヲ得ス

第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法  
律規則ニ從ス

若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ  
從フ

第二章 刑例

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス  
主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四無期流刑

五有期流刑

六重懲役

七輕懲役

八重禁獄

九輕禁獄

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一重禁錮

二輕禁錮

三罰金

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲ス

一 拘留

二 科料

第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一 剝奪公權

二 停止公權

三 禁治産

四 監視

五 罰金

六 沒收

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第二節 主刑處分

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒテ葬ルヲ許サス

第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服ス

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ服ス

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス  
有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉



心得可然哉此段相  
伺候也  
明治十七年一  
月十一日

指令  
ハ行政上ノ處分ニ  
屬スルヲ以テ裁判  
確定ノ後納完セザ  
ル者ハ司法警察官  
ヘ交付スヘキ儀ト  
心得

○明治十七年三  
月十四日  
盛岡始審裁判所  
檢事ヨリ罰金科  
料ニ處セラレタ  
ル者ハ拘留ニ換  
ルル件ニ付伺  
ル松始審裁判所  
若事ヨリ人徴喚  
參之科ニ處セラ  
料ニ處セラレ完

第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス  
一 國民ノ特權

二 官吏ト爲ルノ權

三 勳章年金位記賞號恩給ヲ有スルノ權

四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權

五 兵籍ニ入ルノ權

六 裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス  
七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限  
ニ在ラス

八 分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權  
九 學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公  
權ヲ剝奪ス

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職  
ヲ失ヒ其刑期間公權ヲ行フヲ停止ス

納スル能ハス勾留  
儀ニ換ラレハ者之  
通リ伺別紙寫シ  
之當裁判所管轄  
於ケルモ同様數  
里外ヨリ引致并  
縣監獄ニ於テ執  
支署ルテ得テ行  
サ、縣廳ニ協議  
付、縣廳本分署  
各、各本分署ニ於  
テ、各本分署ニ於  
苦、各本分署ニ於  
別紙) 明治十七年二  
月八日

第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス  
監視ノ期間公權ヲ行フヲ停止ス  
主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者亦同シ  
第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其主刑  
ノ終ルマテ自ラ財産ヲ治ムルヲ禁ス  
第三十六條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル時ハ行政ノ處分ヲ以テ治  
産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得  
第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス各本刑  
ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間監視ニ付ス  
第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條ニ記載  
スルノ外監視ニ付スルヲ得ス  
第三十九條 死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用  
ヒス五年間監視ニ付ス  
第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ期滿免  
除ヲ得タル時ハ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス

○ 若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス

第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルヲ得

第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月内ニ納完セサル時ハ第廿七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ換ヘ主刑滿限ノ後之ヲ執行ス

第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

一 法律ニ於テ禁制シタル物件

二 犯罪ノ用ニ供シタル物件

三 犯罪ニ因テ得タル物件

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハズ之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルヲ得ス

第四節 徵償處分

若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス

第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルヲ得

第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月内ニ納完セサル時ハ第廿七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ換ヘ主刑滿限ノ後之ヲ執行ス

第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

一 法律ニ於テ禁制シタル物件

二 犯罪ノ用ニ供シタル物件

三 犯罪ニ因テ得タル物件

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハズ之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルヲ得ス

第四節 徵償處分

○ 杖戶集治監分方

第一之證據物付同徒

入品ノ情節願持ノ任

他餘賣却シタル罪

後品ハ發覺シタル罪

物用品ハ供シタル罪

物用品ハ供シタル罪

商公買非其公

者之買取ルル

雖モ沒收スル

限一見之候裁ノ通

第法省見込ノ通

司法省見込ノ通

岐事始審裁判所

檢事ヨリ輕罪ノ所

刑留ヨリ減等罪ノ所

拘留者ノ處ニテ

請訓者ノ義ニ付

刑法第五十條刑ハ

第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラレト雖モ被害者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ免カル、ヲ得ス

第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシム

第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請求ヲシト雖モ直チニ被害者ニ還付ス

第五節 刑期計算

第四十九條 刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス

第五十條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルヲ得ス

第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタル者





水戸始審裁判所  
 檢事ヨリ請訓  
 保釋ヲ得ル  
 又罪ヲ得ル  
 テ刑ノ言ヲ受  
 其執行ニ係ル  
 後上告ニ其刑  
 判決トナリ重  
 キキテ以テ已  
 スル日數ヲ控  
 ル時右審問ノ  
 拘留モ亦刑期  
 數一キ刑期ニ  
 十條第ニ項上  
 中裁ハ禁刑受  
 裁原ハ刑罰シ  
 メ人留セラレ  
 所犯メ人留セ  
 以テハ爲告

四重懲役重禁獄ハ十五年  
 五輕懲役輕禁獄ハ十年  
 六禁錮罰金ハ七年  
 七拘留科料ハ一年  
 第六十條 剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス  
 附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得  
 沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ期滿免除ノ限ニ在ラス  
 第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ通レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ  
 就キ再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ闕席裁判ニ係ル時  
 ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス  
 第六十二條 刑ノ執行ヲ通レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時ハ最終  
 ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス  
 第八節 復權  
 第六十三條 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年  
 ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルヲ得

ハテノ故ナラシ  
 罪ノ爲メハ素原  
 言渡ルハ因ル事  
 ス毫モ上告ノ事  
 コ關セサルモノ  
 ノ即チ人自ラ求  
 ル所ナリ尋常上  
 中拘留セラルル  
 モ異ニシハ大ニ  
 刑期ニ通算スル  
 モ思フコトアル  
 御内訓也此段仰  
 内明候也此段仰  
 前月十日六年八  
 前段見解之通  
 司省見解之通  
 茨城縣ヨリ刑  
 計算儀ニ付伺  
 刑ノ言渡テ受ケ

主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過ス  
 ルノ後亦同シ  
 第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復權ヲ得特赦ニ因  
 テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレハ復權ヲ得ス  
 赦ニ因テ復權ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免シタル者トス  
 第六十五條 復權ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラズ  
 第三章 加減例  
 第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シ  
 タル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス  
 第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス  
 一死刑  
 二無期徒刑  
 三有期徒刑  
 四重懲役  
 五輕懲役





ヨリ刑期ヲ起算スル儀ト心得可シ  
 ○明治十七年十一月廿七日  
 司都府ヨリ刑期  
 京算ノ儀ニ付  
 計一ノ未決監  
 收監セシテ又  
 中餘罪發シテ  
 監狀ノ發シテ  
 一モノアリ而シテ  
 ノノ所爲ニ對シテ  
 言渡第ニ對シテ  
 對經テ免ノ言  
 ナナシ又刑言  
 ナナシ又刑言  
 場合ニ於テハ  
 監收中ハ未決  
 第一ノ刑期ハ  
 第五ノ刑期ハ  
 算テ可然通ナル  
 第ニ果

於テ之ヲ記載ス

第二節 自首減輕

第八十五條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラス  
 第八十六條 財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部ヲ還償セスト雖モ半數以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ス  
 第八十七條 財産ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條ノ例ニ照シ處斷ス  
 第八十八條 此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ハ各其本條ニ從フ  
 第三節 酌量減輕  
 第八十九條 重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコトヲ得  
 法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時

ハ仍ホ之ヲ減輕スルコトヲ得  
 第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス  
 第五章 再犯加重  
 第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ  
 第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ  
 第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年内再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス  
 第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ論スルコトヲ得ス  
 第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該







ハ其刑方如分ノ三  
 計日數ト新日數  
 刑殘ラレタル儀ト  
 處セ合算スル儀ト  
 ト心合算スル儀ト  
 相心得可然哉此段  
 相候也  
 明治十六年八月  
 指月廿三日  
 令月廿三日  
 見込ノ通  
 段月十六年九月  
 ○石川縣ヨリ刑期  
 計算ノ儀ニ付  
 罪人アリ其財不  
 分メテ甲地裁  
 所於テ八月四日  
 欠席ノ儘重禁錮  
 月罰金四圓監視  
 然ルニ本犯ハ乙地  
 於テ毆打創傷事

皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シ  
 第百十八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス  
 第百十九條 皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 第百二十條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス  
 第二章 國事ニ關スル罪  
 第一節 内亂ニ關スル罪  
 第百二十一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルヲ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス  
 一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス  
 二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期徒刑ニ處ス  
 三 兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁錮ニ處シ

件ニ付七月廿五日  
 同地獄署ニ甲地禁  
 裁ヲ所レタル事  
 月十右相知席裁  
 判言渡書ヲ右欠席  
 送致シタル乙地  
 即日本犯ニ乙地  
 於テ然ル處同月  
 七日前罪發欺取  
 二ト前罪發欺取  
 問ニヒ重禁錮二  
 刑ニヒ重禁錮二  
 右刑ニヒ重禁錮二  
 分ニヒ重禁錮二  
 日ニヒ重禁錮二  
 候ニヒ重禁錮二  
 渡ニヒ重禁錮二  
 十ニヒ重禁錮二  
 後判ニヒ重禁錮二  
 重禁錮ニヒ重禁錮二

其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス  
 四 教唆ニ乘シテ付和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
 第百二十二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ已ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ  
 第百二十三條 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ舉ルニ至ラスト雖モ内亂ト同ク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス  
 第百二十四條 前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス  
 第百二十五條 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス  
 内亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス  
 第百二十六條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス



候儀ニ候哉差懸リ  
御儀有之候條至急  
段相揮被成下度此  
指令月十四日  
後段伺之通

第二百二十七條 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ二年  
以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百二十八條 内亂ニ乘シテ人ノ身體財產ニ對シ内亂ノ目的ニ關セ  
サル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二節 外患ニ關スル罪

第二百二十九條 外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戰中同盟國  
ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百三十條 交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ本國  
及ヒ同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家  
屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百三十一條 本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵  
隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ  
處ス

敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル  
者亦同シ

第二百三十二條 陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス  
者交戰ノ際敵國ニ通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備  
ノ缺乏ヲ致シタル時ハ有期流刑ニ處ス

第二百三十三條 外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處ス  
其豫備ニ止ル者ハ一等又ハ二等ヲ減ス

第二百三十四條 外國交戰ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタル時其  
布告ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上  
百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十五條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯ル輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六  
月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 兇徒聚衆ノ罪

第二百三十六條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ説諭ヲ受ケル  
ト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ重  
禁錮ニ處ス附和隨行シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス



第一條 官林監  
守ノ如キハ官監  
ト行フハハキ職  
リ監視人職及ヒ  
付テ犯罪スルハ  
職務ニ對スルハ  
罪處分スルハ同  
第三條 官吏ノ  
雇員ハ官吏ノ職  
務履行ノ場合ニ  
限リ職務ノ履行  
他職ヲ行フハ其  
際ハ重罪輕罪ニ  
ルハ當然發見セ  
時ハ當然發見セ  
責任ハ當然發見  
ト雖ハ治罪法第  
九條ニ依ル  
モ林監守人ニ付  
モ亦同シ  
明治十六年十

ニ同シ但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷  
ス  
第四百十五條 囚徒三人以上通謀シテ逃走シタル時ハ第四百十二條  
ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ  
第四百十六條 囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又  
ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ  
二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス囚徒ノ逃走ヲ致シタル時  
ハ一等ヲ加フ  
第四百十七條 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケ  
タル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ  
罰金ヲ附加ス  
若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ輕懲役ニ處ス  
第四百十八條 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシメタル  
時ハ亦前條ノ例ニ同シ  
第四百十九條 前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサ

○ 二月二十日  
司法省  
山形縣  
所酒田支廳  
ヨリ官吏ノ職  
致シテ侮辱ス  
者ノ職儀ニ付  
吏ノ職務ニ對  
書テ直ニ其官  
送テ致シテ侮  
文ニシテ法律  
無シテ處分ス  
記シテ直接ニ  
致シテ接ニシ  
前ニ於テ爲セ  
同ハ刑罰ノ爲  
條ハ初項ヲ以  
可シテ雖モ已  
上ニシテ命上  
即ク文書ノ名  
可クシテカ  
ト云フ

ル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス  
第四百十條 看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時  
ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス  
若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ三圓以上三十圓以下  
ノ罰金ニ處ス  
第四百十一條 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタル者ナ  
ルヲ知テ之ヲ藏匿シ若シハ隱避セシメタル者ハ十一日以上一年  
以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フ  
第四百十二條 他人ノ罪ヲ免カレシメントシテ圖リ其罪證ト爲ル可キ  
物件ヲ隱蔽シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以  
上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
第四百十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪  
ヲ論セス  
第四節 附加刑ノ執行ヲ通ルノ罪



不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス

第六十五條 瀛車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐僞ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條ニ同シ

第六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第六十八條 第六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六十九條 第六十五條第六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ瀛車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタル者ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタル

時ハ死刑ニ處ス

第七十條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪

第七十一條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ十一月以上六月 下ノ重禁錮ニ處ス 若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ

一 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタル時

二 兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帯シテ入りタル時

三 暴行ヲ爲シテ入りタル時

四 二人以上ニテ入りタル時

第七十二條 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ前條ニ記載シタル加重ス可キ所爲アル時ハ一等ヲ加フ

第七十三條 故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル者

ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

第七十四條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス  
若シ看守自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

第七十五條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第七十六條 看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルコトヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

第七十七條 陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身體ヲ毀傷シテ疾

病ヲ作為シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免役テ圖リタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應セシメタル者亦同シ其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル者ハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ處斷ス

第七十九條 醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ亦前條ニ同シ

第八十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ減ス

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第百八十二條 内國通用ノ金銀貨幣及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第百八十三條 内國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若クハ變造シテ行使シタル者ハ内外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第百八十五條 内國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造已ニ成テ未タ行

使セサル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス

若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ着手セサル者ハ各三等ヲ減ス

第百八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇テ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス

第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ

第百九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取受シ之ヲ行使シタル者ハ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス其未タ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス

第百九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ

六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入取受シタル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

若シ職工雜役及ヒ房室ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第九十三條 貨幣ヲ取受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ其價額ニ倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スヲ得ス

第二節 官印ヲ偽造スル罪

第九十四條 御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第九十五條 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス

第九十六條 產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其

偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス

書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九十七條 御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ看守者自カラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

第九十八條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十九條 已ニ貼用シタル各種ノ印紙郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス





テ即テ社會ノ一部  
 令父祖ノ信  
 亦以テモ信用  
 ハ害スルモト謂  
 ノハ理アルカ  
 チノ公衆ニ使  
 チヤ故ニ本  
 信ヲ用テハ本  
 シテ一ハ害ス  
 スル罪ナルコ  
 別カ自カニ  
 主義相異ナル  
 テ詐欺取財ノ  
 之偽證書ハ罪  
 印ノ本節ハ偽  
 或ハ本節ハ偽  
 起因ノ條ニ偽  
 チ以テハ之ヲ

第二百十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

第二百十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第二百十四條 屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

官吏情ヲ知テ鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十五條 公務ヲ免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分クス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

醫師屬託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ

ス必其結果ヲ  
 用テ行ハル  
 欺取財ハ罪  
 立元來ニ罪  
 合セテハ罪  
 父祖ノ金目  
 ミコト出カ  
 證書ニシテ  
 人ヲ害スル  
 サルル以上  
 ル手本ノ案  
 實ハ左ノ如  
 茲ニ甲乙丙  
 アリテハ其  
 ニシテ乙丙  
 テ品ヲ修テ  
 ラ早家ノ意  
 スルキ必離  
 備ヘキナ知  
 準ルキナ知

第二百十六條 陸海軍ノ徵兵ヲ免カル可キ爲メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ増減變換シテ行使シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同シ

第六節 偽證ノ罪

第二百十八條 刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一 重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三 違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス

ノ盗竊ニシテ甲ノ印影ヲ用ルル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

第一重罪ニ照ラシムル爲メ偽證シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二輕罪ニ照ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三違警罪ニ照ラシムル爲メ偽證シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十一條 偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ偽證書ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ記載シタル偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

其刑期限内ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルコトヲ得但減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降ス

右疑義仰内訓候也

明治十七年四月十日

内訓月十日

子孫父祖ノ借用

證書取造ノ金

圓ヲ詐取セシメト

儀付者處分ノト

右儀付者及内訓

候也此旨及内訓

明也此旨及内訓

月治十七年五月

司法省始審裁判

山形縣支廳檢事

所酒田支廳檢事

關セリ醫師公務事

疾ヲ病證書ヲ詐造ル

者ノ義書付伺爲

主チ被廢スルカ爲

又ハ被廢スルカ爲

ノ際或ハ保釋中ノ呼

出メ戸ノ節又ハ其他ノ

コトヲ得ス

第二百二十二條 偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス

若シ被告人ヲ死ニ陷ル、ノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス

第二百二十三條 民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十四條 鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百二十五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シ

第二百二十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣



第二百三十六條 調書ヲ作り投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減シ  
其他詐僞ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以  
上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片烟ニ關スル罪

第二百三十七條 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者  
ハ有期徒刑ニ處ス

第二百三十八條 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ  
之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第二百三十九條 税關官吏情ヲ知テ阿片烟及ヒ其器具ヲ輸入セシメ  
タル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百四十條 阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ  
輕懲役ニ處ス

人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ

第二百四十一條 阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以上ノ重禁

錮ニ處ス

第二百四十二條 阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者  
ハ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

第二百四十三條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコ  
能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ  
二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ  
腐敗セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三  
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者  
ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ  
船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以

下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スヲ知テ制止サル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四節 危害品及健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪  
第二百五十條 官許ヲ得スシテ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設スト雖

モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百五十二條 第二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

第二百五十三條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

第二百五十六條 官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シ

○司法省  
宮城縣ヨリ  
第二百五十六條  
疑義ニ付請訓  
刑法第二十六

條ニ官許ヲ得タル  
 テ業ヲ爲シタル  
 モ云々トアルハ  
 醫業トアルハ獸醫  
 ナモ包含セシヤ將  
 タモ包含セシカ儀ト  
 心可得然哉聊カ疑  
 義ヲ生シ候條至急  
 何分ノ御訓示有之  
 度候也  
 明治十七年八月  
 内訓  
 別紙  
 法第百五十六條  
 條ハ獸醫ト包合  
 セサル儀ト心得  
 ハシ此旨及内訓  
 候也  
 明治十七年九月  
 三日

タル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六章 風俗ヲ害スル罪

第二百五十八條 公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラス

賭博ノ器具財物其現場ニアル者ハ之ヲ沒收ス

第二百六十二條 財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興

行シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ説教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル

者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ穀類其他衆人ノ需用ニ缺ク可カラサル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ減ス  
第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十九條 傷計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨害シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十二條 虛偽ノ風説ヲ流布シテ穀類其他衆人需用物品ノ價直ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セズ又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サ、ル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二十圓以





以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十六條 裁判官檢察官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其被告人ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ反坐ス

第二百八十七條 裁判官檢察官吏賄賂ヲ收受聽許セスト雖モ情ニ徇カヒ又ハ怨ヲ挾サミ被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十八條 前數條ニ記載シタル賄賂已ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者ハ其價ヲ追徴ス

第三節 官吏財産ニ對スル罪  
第二百八十九條 官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス

因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百九十條 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百九十一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪

第一章 身體ニ對スル罪

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス

第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處ス

第二百九十五條 支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十六條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其

罪ヲ免カル、爲メ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ

致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀故殺ヲ以テ論ス

第二節 毆打創傷ノ罪

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷テ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘廢シ癡疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮

ニ處ス

其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百二條 豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルヲ能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラス

第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス

第三百七條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス

第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪  
第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ルヲ能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルヲ得

第三百十一條 本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル

者ハ此限ニ在ラス

第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本刑ニ照シニ等又ハ三等ヲ減ス

第三百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ已ムヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス其罪ヲ論セス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十五條 左ノ諸件ニ於テ已ムヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス

- 一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出タル時
- 二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時
- 三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損

壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

第三百十六條 身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖モ已ムヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラス但情狀ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルヲ得

第四節 過失殺傷ノ罪

第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ癱篤疾ニ致シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五節 自殺ニ關スル罪

第三百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以

上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第三百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

第三百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重ニ從テ處斷ス

第三百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クコト怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第七節 脅迫ノ罪

第三百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋ニ放火セント脅迫シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放火シ及ヒ毀壞劫掠セント脅迫シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十七條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百二十八條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ亦前二條ノ例ニ同シ

第三百二十九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第八節 墮胎ノ罪

第三百三十條 懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ一

月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者ハ亦前條ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ一年以上三年以上以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百三十三條 懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ其墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス

第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第三百三十六條 八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者ハ一月以上一年

以下ノ重禁錮ニ處ス

自ラ生活スルヲ能ハサル老者疾病者ヲ遺棄シタル者亦同シ

第三百三十七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾者ヲ寥闕無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス可キ者前二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百三十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ癡疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルヲ知テ之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルヲ知テ扶助セス又ハ申告セサル者亦同シ

第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪





待テ其罪ヲ論ス

第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ癡篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ効ナシ

第三百五十四條 配偶者アル者重子ヲ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪

第三百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百二十條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百五十六條 誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第三百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ第二百一十一條第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス

第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處斷ス

一 公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十九條 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非カレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルヲ得ス

第三百六十條 醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若クハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委托ヲ受ケタル事ニ因テ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス

第三百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

第三百六十二條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

其自殺ニ關スル罪ハ凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ

第三百六十三條 子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但廢疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ヲ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百六十四條 子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セス其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百六十五條 祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フルコトヲ得ス但其犯ス時知ラサル者ハ此限ニ在ラス

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪

第三百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百六十七條 水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百六十八條 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ





其財物若シハ證書類ヲ授與セシメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス  
 第三百九十二條 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若  
 シハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス  
 第三百九十三條 他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當  
 典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス  
 自己ノ不動産ト雖モ已ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣  
 與シ又ハ重子ヲ抵當典物ト爲シタル者亦同シ  
 第三百九十四條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二  
 年以下ノ監視ニ付ス  
 第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金  
 額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙  
 取拐帶其他ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス  
 第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件  
 ヲ藏匿漏脱シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分  
 散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未ク遂ケサル  
 者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス  
 第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條  
 ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス  
 第六節 贓物ニ關スル罪  
 第三百九十九條 強竊盜ノ贓物タルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買  
 シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三  
 圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 第四百條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス  
 第四百一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルコトヲ知テ之ヲ  
 受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一日以上一年以  
 下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 第七節 放火失火ノ罪  
 第四百二條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ  
 處ス

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第四百四條 火ヲ放テ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百五條 火ヲ放テ人ヲ乘載シタル船舶瀛車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

其人ヲ乘載セサル船舶瀛車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス

第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十條 火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣井蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家屋財産ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トヲ分チ放火失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第八節 決水ノ罪

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載セサル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十九條 人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ

處ス

第四百二十條 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄滅盡シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

第四編 違警罪

第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留

- ニ處シ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 一規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品ヲ市街ニ運搬シタル者
- 二規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品又ハ自ラ火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者
- 三官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者
- 四人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者
- 五蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者
- 六官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋牆壁ノ修理ヲ爲サ、ル者
- 七官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者
- 八自己ノ所有地内ニ死屍アルコトヲ知テ官署ニ申告セス又ハ他所ニ移シタル者
- 九人ヲ毆打シテ傷創疾病ニ至ラサル者

- 十密ニ賈淫ヲ爲シ又ハ媒合容止ヲ爲シタル者
  - 十一人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者
  - 十二定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者
  - 十三官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者
  - 十四違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者但被告人偽證ノ爲メ刑ヲ免カレタル時ハ第二百十九條ノ例ニ從フ
- 第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス
- 一人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者
  - 二水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キノ求メテ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セサル者
  - 三不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者
  - 四健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者
  - 五人ノ通行ス可キ場所ニアル危險ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ



爲サ、ル者

六路上ニ於テ犬其ノ獸類ヲ噬シ又ハ驚逸セシメタル者

七發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者

八狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者

九變死人ノ檢視ヲ受ケヌシテ埋葬シタル者

十墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者

十一神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者

十二公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留

ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

一濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

二制止ヲ肯セズシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者

三夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者

四木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケヌ又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタ

ル者

五瓦礫ヲ道路家屋園圍ニ投擲シタル者

六禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者

七汚穢物ヲ道路家屋園圍ニ投擲シタル者

八警察規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者

九醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者

十死亡ノ申告ヲ爲サヌシテ埋葬シタル者

十一流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者

十二妄ニ吉凶禍福ヲ說キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ

圖ル者

十三私有地外ニ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者

十四官許ヲ得ヌシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者

十五路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ廁場等ヲ毀損シタル者

十六道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ

毀棄汚損シタル者

第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十

錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

一官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者

二渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者

三渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者

四路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者

五官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者

六溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者

七制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者

八官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者

九身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者

十他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者

十一他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者

第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科

料ニ處ス

一橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者

二牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

三車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

四水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者

五氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者

六官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サハル者

七制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

八牛馬ヲ牽キ又ハ繫クコトヲ忽セカニシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

九出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者

十通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者

十一道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者

十二酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者

十三路上ノ常燈ヲ消シタル者

十四人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者

十五邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者

十六他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者

十七公園ノ規則ヲ犯シタル者

十八通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者

第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ從テ處斷ス

第二節 刑法附則

○十四年十二月第六十七號布告

刑法附則目錄

第一章 主刑執行

第二章 監視

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第四章 刑事裁判費用

第五章 賠償處分

刑法附則

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ獄司刑場ニ立會ヒ獄司ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行スヘキヲ告示シタル後獄丁ヲシテ之ヲ執行セシム但其時限ハ午前十時前トス

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴クシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サス但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此ノ限リニアラス

第三條 死刑ノ執行畢リタルトハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ムヘシ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス  
元始祭



ル文審判シラノ付ヲ前告二裁揭三十ハ告ノハ榜シク上シ  
儀ヲ院言タルレ幾キ爲條ヲ條示號五公ニ全原示公ル後告上  
ト揭判渡ル死分原シノ受條ヲ條方御年告對文裁公ル時死却  
相ケ決書ハ刑ヲ破判上ク刑ノ取達御セスル揭言ス犯刑セ  
心得告ノヒ原執毀言告上ルノ扱可依丙明判ケ渡ル由執  
可ス全大裁行セ渡ニ告者宣然リ第治文上書ニヲ行レ該

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自テ工業ヲ爲サント請フ者ハ  
獄司之ヲ許スヘシ  
第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免スヘキ者アルキハ獄司ヨリ内務司法兩  
卿ニ上申テ其許可ヲ受クヘシ  
第十三條 徒刑ノ内假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セ  
ラレタル者家屬ヲ招キ同居スルヲ請フキハ之ヲ許スコトヲ得但其路  
費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ  
第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限り居住セシムル者ハ監獄近傍  
ノ地ヲ限り獄司ノ監督ヲ受ケシム若シ已ムコトヲ得サル事故アルキ  
ハ獄司ニ請フテ限外ニ出ルコトヲ得  
第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタルキハ本  
刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執行スヘシ  
第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得  
第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ  
獄司之ヲ許スヘシ

テ得指通別事交 ○ 段急取行者ニ總哀受右  
檢止令相紙務規三司通指 相御扱ヲ有裁テ訴ケハ然  
印警有伺寫取所則重法 令月明伺指方爲之判棄テケハ死裁  
爲察之朱シ扱ニ於義ヨリ 書二十也揮差シニ確却爲シ後ノ刑  
致署候書第ノ於義テコリ 面日六有問タル刑シラ其上宣  
居ノニ付通條ニ監付監 伺之九此至ハ執ノタルレ上告告  
候ニ不御之付視伺 視 此至ハ執ノタルレ上告告

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百  
日以内ハ工錢ヲ給與セス  
第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル  
方法ハ監獄ノ規則ニ從フ  
第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未ク納完セサル前ニ於テ犯人身死  
スルキハ之ヲ徵收セテ附加ノ罰金ニ於ル亦同シ  
第二章 監視  
第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察  
官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス  
第二十二條 (十五年第四十二號布告ヲ以テ左ノ通り改正ス)  
監視ニ付スヘキ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタルキ典獄  
ヨリ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致  
シ監視ヲ執行セシム但主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ  
止テ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ護送スヘシ  
第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スルキハ其監視ノ起算滿期ヲ記載





○司月廿六日  
 茨城縣ヨリ監視  
 刑務署へ護送ノ人  
 送付之儀ニ付  
 本署に於て  
 監視人ヲ付シテ  
 送付ハ是レ當  
 於テ送ハルル  
 刑務署に於テ  
 書名送致書受ケ  
 置キ同署書記  
 テ之ヲ復テ以テ  
 其本署候處  
 致シ來リ候  
 日福岡縣ニ  
 令行據レハ  
 執行ハ裁判  
 送致ノ刑務  
 告書本署以テ

ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事  
 第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財產ヲ治メ若  
 シハ職業ヲ營マントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受クヘシ  
 第四十二條 (十五年第四十二號布告ヲ以テ本條ヲ左ノ通改正ス)假  
 出獄ヲ許スヘキ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日典獄ヨリ其證  
 票ノ謄本ヲ添ヘ第二十二條ノ例ニ依リ犯人ヲ護送シ特別監視ヲ執  
 行セシムヘシ  
 第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十五  
 條第二十六條第二十九條第三十一條ノ例ヲ適用ス  
 第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守  
 スヘシ  
 一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ至リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ  
 出シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ但シ疾病又ハ已ムヲ得サル事故ア  
 リテ警察所ニ至ルコト能ハサルキハ其事由ヲ届出ツヘシ  
 二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

之ヲ成ス可シト  
 數名ニテ其各  
 一居住ノ地ハ  
 住居ノ長短  
 又刑務署  
 テ之ヲ執行  
 コト際シテ  
 裁合ケル  
 受合ケル  
 場合ニ於テ  
 ス主合ケル  
 年主合ケル  
 書主合ケル  
 ラ主合ケル  
 冊主合ケル  
 裁主合ケル  
 判主合ケル  
 警主合ケル  
 ハ主合ケル  
 裁主合ケル  
 於主合ケル  
 煩主合ケル  
 支手數

三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスルキハ警察所ニ申請シ許可ヲ受  
 クヘシ但他ノ府縣ニ轉移スルコトヲ許サス  
 四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルコトヲ許サス  
 第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢  
 スルコトアルヘシ  
 第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ假出獄證  
 票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル獄司ニ遞送スヘシ  
 主刑滿限ノ後監視ニ付スヘキ犯人ナルキハ警察所ニ於テ第二章ノ  
 例ニ從テ處分スヘシ  
 第四十七條 假出獄ヲ許スヘキ者住所ナク及ヒ引取人ナキキハ第三  
 十二條ノ例ニ從ヒ懲治場ニ留置スヘシ  
 第四章 刑事裁判費用  
 第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通辯人翻譯  
 人ニ給與スヘキ日當旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載  
 シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス













力無之節ハ犯人  
 本籍ノ地方稅救  
 育費中ヨリ辨償  
 明治十七年四月  
 滋賀縣ヨリ監視  
 内務省ヨリ監視  
 通ノ監視ニ付テ  
 管下ノ旅者ニ付  
 儀ハ刑罰則第二  
 章中ハ明文モ第  
 且本縣ヨリ候置  
 共就居地内旅行  
 方就居地内旅行  
 役等無以然ル力  
 爲業モノテ如キ  
 其住居地ノ村最  
 於テ其職業ニ從

額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルヲ得ス  
 第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ  
 半額ヲ給與ス  
 第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首  
 シタル者ハ其罪ヲ免ス  
 再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス  
 第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス自首ニ因  
 テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル  
 參看  
 ○元年十二月二十三日布告  
 富興行之儀ハ兼而御禁制ニ有之處近年諸國ニ於テ金錢融通ヲ名トシ  
 或ハ社寺再建等ニ托シ興行致候向モ有之趣元來澆季之弊風僥倖之利  
 ナ以テ民心ヲ誘惑スルヨリ自然農工商共其職業ヲ惰リ往々之カ爲ニ  
 家産ヲ破候者モ不少哉ニ相聞ヘ以テ外ノ事ニ候斯御一新之折柄右様  
 之所業殊ニ御趣意ニ相戾リ候儀ニ付更ニ嚴禁被仰出候事

事外ナルヲ得ス數  
 署下モテハ日右等  
 ノ者居至テハ毎  
 兩度居住地ノ所轄  
 警署ノ出頭ヲ表  
 スル爲メ出頭スル  
 ハ時日ヲ費スル  
 以上テ困難ノ所  
 以テ出頭ノ地ノ  
 警署出頭ノ地ノ  
 旨出願スルモシ  
 リ右ハ願ハシキ  
 至リハ願ハシキ  
 所轄ノ出頭ノ地  
 署所轄ノ出頭ノ  
 候御裁可  
 情指無令月明相差通警署所轄ノ出頭ノ地  
 情指無令月明相差通警署所轄ノ出頭ノ地

第二節 米穀金銀貨限月若クハ現場ノ賣買  
 ○十三年四月第二十一號布告  
 法律定規ニ遵ヒ官許ヲ得タル米商會所株式及ヒ橫濱取引所外若クハ  
 内タリヒ竊カニ米穀并ニ金銀貨幣及ヒ株式ノ限月若クハ現場(定規  
 ヨリ起リタル現場ヲ云フ)賣買其他之ニ類似シタル取引ヲ爲シタル  
 者及ヒ情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ  
 誘助シタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ無効  
 ト爲スヘシ  
 但シ本條ヲ犯シタル者ヲ告發シタル者ニハ其告發ニ因テ課シタル  
 罰金ノ全部ヲ給ス其自ラ犯シタル者事未タ發覺セサル前ニ於テ自  
 首シタル者ハ其罪ヲ問ハス  
 ○十六年八月第二十九號布告  
 米商會所及株式取引所ノ仲買人ニシテ竊ニ米穀並金銀貨幣公債證書  
 株式ノ限月若クハ現場(定期ヨリ起リタル現場ヲ云フ)賣買又ハ其類  
 似ノ取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若

許可シ不苦儀ト  
明心得  
明治十七年一  
月九日

クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ五十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ  
其賣買取引ハ米商會所條例及株式取引所條例ノ手續ヲ爲サシム  
○十三年九月第四十九號達

近來竊ニ製茶砂糖反物薪炭等種々ノ品物ヲ以テ限月若クハ現場賣買  
類ノ商業ヲ爲ス者有之趣右ハ總テ本年(四月)第廿一號布告ニ依リ處  
分スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○十六年一月第四號布告

米商會所株式取引所ノ限月若クハ現場賣買ノ方法ニ倣ヒ又ハ之ニ類  
似ノ方法ヲ用ヒ諸物品ノ賣買取引ヲ爲シタル者及ヒ情ヲ知テ賣買取  
引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ總テ明  
治十三年(四月)第二十一號布告ニ依リ處分スヘシ

第三節 朝鮮國行歩規程違反

○十六年四月第一號布告

朝鮮國ニ於テ行歩規程ヲ犯タル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四節 北海道ノ水產物取獲及製造

○十七年五月第十二號布告

(十八年一月第二號布告ヲ以テ十二字ヲ增加シ左ノ如ク改正セリ)  
北海道ニ於テ納稅スヘキ水產物ヲ取獲シ又ハ水產物ヲ有稅品ニ製造  
セントスルモノハ其地ノ管廳ヘ願出許可ヲ受ヘシ違フモノハ貳圓以  
上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其物品ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタルモノハ  
其代價ヲ追徵ス

第五節 北海道臘虎臘肭獸獵獲

○十七年五月第十六號布告

自今北海道ニ於テ臘虎并臘肭獸ヲ獵獲スルヲ禁ス犯ス者ハ刑法第三  
百七十三條ニ照シテ處斷シ仍ホ其獵獲物ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者  
ハ其代價ヲ追徵ス

但農商務卿ノ特許ヲ得タル者ハ此限ニアラス

第六節 投錨漁業採藻

○十六年二月第五號布告

水底電信線路ニ於テ投錨漁業採藻等ノ禁ヲ犯ス者ハ貳圓以上百圓以

下ノ罰金ニ處ス

第七節 銃砲彈藥ノ所持及製造

○五年九月第二百八十二號布告

銃砲取締規則ニ違ヒ銃砲彈藥類ヲ竊ニ所持シ且致取扱候者有之節ハ各地方ニ於テ其品取上ケ更ニ五十錢ノ過料可申付候事

(明治七年十二月第二百十二號布告ヲ以テ左ノ一項ヲ増補ス)

免許ヲ得スシテ銃砲彈藥ヲ製造スル者ハ其品取上ケ更ニ三圓以內ノ過料可申付事

但取締向ニ關係無之者見當リ訴出候ニ於テハ犯人過料ノ半金ヲ可被下候事

第八節 檣燈及舷燈ノ製造

○十四年五月第三十一號布告

明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則ニ記載シタル檣燈及ヒ舷燈ハ農商務省ノ許可ヲ受ケタル者ニアラサレハ之ヲ製造スルヲ得ス犯ス者ハ貳圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九節 墓地及埋葬取締規則違反

○十七年十月第八十二號達

今般第貳拾五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモノハ違警罪ノ刑ヲ以テ處分スヘシ此旨相達候事

○第二款 行政警察ニ屬スル者

第一節 賭博犯處分規則

○十七年一月第一號布告

賭博犯ノ義ハ刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候ヘ且當分ノ內行政警察ノ處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方官ヲシテ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノ事ヲ行ハシム

賭博犯處分規則

第一條 賭博ヲ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及ヒ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス家屋ヲ貸與及ヒ見張ヲ爲シ其他總テ幫助ヲ爲シタル者亦同シ  
博徒ニシテ黨類ヲ招結シ又ハ賭場ヲ開張シ又ハ凶器ヲ携帯シ又ハ

○内務省 神奈川縣 賭博ノ害スルコトヤ  
博民少ナシハ該犯既ニハ  
淺少ナシハ該犯既ニハ  
者々ノ嫌惡スヘキハ  
喋々ノ待第壹號布  
客以テ月第壹號布  
告ヲ制テ該犯懲罰  
則以テ存候レ懲罰  
所ニテ存候レ懲罰  
刑以テ存候レ懲罰  
ナリテ存候レ懲罰  
至リテ存候レ懲罰  
別異ルハ重禁錮ニ  
付該犯者ハ罰一ニ  
以テ該犯者ハ罰一ニ  
ルモ該犯者ハ罰一ニ  
箇年ノハ該犯者ハ罰一ニ  
ハ該犯者ハ罰一ニ  
員ノハ該犯者ハ罰一ニ  
權ヲ該犯者ハ罰一ニ  
舉規則中奪員其被選  
度此段相伺候也





客月十三日付賭  
博犯之處分儀  
付之趣キハ其  
科シタル懲罰  
料ハ刑ノ在ル  
金額内ニ於テ  
ノ裁判及所ハ  
付スルモ其刑  
ト雖モ其刑期  
額ト超過スル  
ハ更ニ裁判所  
送ハ付テ治九  
月十九日七年三

- 第一章 法例 自第一條至第十四條
- 第二章 刑例 自第十五條至第三十五條
- 第三章 加減例 自第三十六條至第四十五條
- 第四章 數罪併發 第四十六條
- 第五章 數人共犯 自第四十七條至第四十八條
- 第六章 未遂犯罪 第四十九條
- 第二編 重罪輕罪
  - 第一章 反亂 自第五十條至第六十五條
  - 第二章 抗命 自第六十六條至第六十八條
  - 第三章 擅權 自第六十九條至第七十一條
  - 第四章 辱職 自第七十二條至第七十五條
  - 第五章 暴行 自第七十六條至第九十二條
  - 第六章 侮辱 自第九十三條至第九十六條
  - 第七章 違令 自第九十七條至第一百十六條
  - 第八章 逃亡 自第一百十七條至第一百二十條

第九章 詐偽

自第百廿一條至第百廿四條

陸軍刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

第二條 此刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比較シ  
輕キコト從テ處斷ス

第三條 軍人ト稱スルハ將官及ヒ同等官上長官下士諸卒ヲ謂フ

第四條 軍屬ト稱スルハ陸軍出仕ノ文官其他總テ宣誓若クハ讀法ノ  
式ニ由リ陸軍ニ從事スル者ヲ謂フ

第五條 司令官ト稱スルハ一軍一團其他一部隊ト雖モ總テ其司令ニ  
任スル者ヲ謂フ

第六條 哨兵ト稱スルハ儀仗若クハ警戒ノ爲メ守地ニ在ル者ヲ謂フ  
 第七條 上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂フ同等ト雖モ命令ヲ下  
 ス可キ權ヲ有スル者其部下ニ於テハ上官ニ同シ上等卒及ヒ上等卒  
 ノ職ヲ奉スル者其部下ニ於ル亦之ニ準ス  
 第八條 將校同等ノ軍人ハ總テ將校ニ同シ  
 第九條 軍屬及ヒ陸軍所屬ノ諸生徒ハ總テ軍人ニ同シ  
 第十條 親屬ト稱スルハ普通刑法第一百四十四條第百十五條ニ記載スル  
 者ヲ謂フ  
 第十一條 豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外此刑法ニ依テ處斷  
 スルコト得ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス  
 第十二條 第八十條第八十一條第八十六條第八十七條第八十八條第  
 八十九條第九十條第一項第九十五條第百十一條第百十二條第百十  
 三條第百十四條第百十五條第百十六條ニ掲グル所ノ罪ヲ犯ス者ハ  
 軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス  
 第百六條第百七條第百十七條第百十八條第百十九條第百二十條ノ

罪ヲ犯サシムル者ハ軍人ニ非スト雖モ亦軍人ト同ク論ス

第十三條 敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テ第五十三條第五十四  
 條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一  
 條ニ掲グル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷  
 ス但其豫備若クハ陰謀ニ止マル者ハ第六十二條第六十三條ニ照シ  
 テ處斷ス

第十四條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ因リ人ヲ殺傷スル者ハ普通刑法第三  
 編第一章ニ照シ重キニ從テ處斷ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ  
 在ラス

第二章 刑例

第十五條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ此刑法ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第十六條 左ニ掲グル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

一 死刑

- 二 無期徒刑
  - 三 有期徒刑
  - 四 無期徒刑
  - 五 有期徒刑
  - 六 重懲役
  - 七 輕懲役
  - 八 重禁獄
  - 九 輕禁獄
- 第十七條 左ニ掲クル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス
- 一 重禁錮
  - 二 輕禁錮
- 第十八條 左ニ掲クル者ヲ以テ附加刑ト爲ス
- 一 剝奪公權
  - 二 剝官
  - 三 停止公權

- 四 禁治産
  - 五 監視
  - 六 沒收
- 第十九條 陸軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者ハ皆之ヲ銃殺ス
- 第二十條 死刑ハ陸軍卿ノ命令ナルニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス  
軍中若クハ合圍ノ地ニ於テ特權ヲ有スル者アル時ハ其命令ヲ以テ之ヲ行フヲ得
- 第二十一條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服ス  
有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス
- 第二十二條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セ  
ス
- 有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス
- 第二十三條 懲役ハ懲役場ニ入レ定役ニ服ス  
重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス
- 第二十四條 懲獄ハ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十五條 禁錮ハ禁錮場ニ入レ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十六條 普通刑法第十四條第十五條第十六條第十八條第十九條

第二十一條第二十二條第二十五條ニ記載スル所ノ主刑處分ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス

第二十七條 陸軍法衙ニ於テ普通刑法ニ依リ罰金科料ニ處スル者限内納完セス禁錮拘留ニ換フル時ハ更ニ裁判ヲ用ヒス理事ノ求メニ因リ裁判長之ヲ命ス

第二十八條 剝奪公權ハ普通刑法第三十一條ニ記載スル所ノ權ヲ剝奪ス

第二十九條 重罪ノ刑ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

第三十條 剝官ハ宣告シテ將校ノ官職ヲ褫奪ス

下士上等卒軍屬其他ノ官吏此刑法ノ罪ヲ犯シ將校ニ在テ剝官ヲ附加スル刑ニ該ル時ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第三十一條 禁錮ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其刑期間公權ヲ行フヲ停止ス

第三十二條 普通刑法第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十三條第四十四條ニ記載スル所ノ附加刑處分ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス

第三十三條 下士上等卒ハ此刑法及ヒ普通刑法若シハ海軍刑法ニ依リ禁錮ニ處シ官職ヲ失フト雖モ兵役ヲ免セス其失フ所ノ官職ハ主刑終ルノ日ヨリ六月ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ之ヲ復スルヲ得

第三十四條 下士諸卒ハ此刑法及ヒ普通刑法海軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ監視ニ付シ若シハ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付ス可キ時ト雖モ監視ニ付セス

第三十五條 普通刑法第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條ニ記載スル所ノ刑期計算假出獄期滿免除復權ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス

第三章 加減例

第三十六條 此刑法ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ掲クル所ノ例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ズ

第三十七條 第八十七條第八十八條第八十九條第一百二十一條ニ掲クル所ノ重罪ノ刑加減ス可キ時ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 重懲役
- 五 輕懲役

第三十八條 第二編第一章第二章第三章第四章第七章第八章及ヒ第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十六條ニ掲クル所ノ重罪ノ刑加減ス可キ時ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 重禁獄
- 五 輕禁獄

第三十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第四十條 重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ剝官ヲ附加ス第四十一條 禁錮ニ該ル者加重ス可キ時ハ其刑期四分ノ一ヲ加フル

ヲ以テ一等ト爲ス其減輕ス可キ時亦四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲ス

禁錮ノ刑ヲ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス但加ヘテ七年ニ至リ減シテ十日以下ニ降スコトヲ得其減シ盡ス時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下ノ禁錮ニ處ス

若シ減輕シテ十日以下ニ處スル時ハ重禁錮ト雖モ定役ニ服セス

第四十二條 禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル者ハ之ヲ除棄ス

第四十三條 剝官ハ其主刑ヲ減輕スル時ト雖モ仍ホ之ヲ附加ス但十日以下ノ禁錮ニ處スル時ハ此限ニ在ラス

第四十四條 普通刑法第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十五條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十四條第九十五條第九十七條第九十八條第九十九條ニ記載スル所ノ不諭罪減輕再犯加重加減順序ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ

在ラス

第四十五條 再犯加重ハ再ヒ此刑法ノ罪ヲ犯スニ非サレハ之ヲ論スルコトヲ得ス

第四章 數罪俱發

第四十六條 二罪以上俱ニ發スル時若クハ一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經餘罪後ニ發スル時ハ普通刑法第百條第百一條第百二條第百三條ニ記載スル所ノ數罪俱發ノ例ヲ適用ス但此刑法剝官ヲ附加セサル禁錮ノ罪ト剝官ヲ附加スル禁錮及ヒ海軍刑法剝官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法ノ禁錮ノ罪ト俱ニ發シ剝官ヲ附加セサル禁錮ニ處スル時ト雖モ將校ハ仍ホ剝官ヲ附加シ下士上等卒軍屬其他ノ官吏ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第五章 數人共犯

第四十七條 軍人二人以上共ニ此刑法ノ罪ヲ犯ス時ハ普通刑法第百四條第百五條第百六條第百七條第百八條第百九條第百十條ニ記載スル所ノ數人共犯ノ例ヲ適用ス但第六十七條第七十七條第七十八

條第八十一條第八十三條第八十四條第八十五條第一百十九條ニ掲  
ル所ノ罪ヲ論スル時從犯ハ首魁ニ非サル正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス  
第四十八條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ  
依リ處斷スト雖モ軍人ニ非サル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス  
但第十二條第十三條ニ依リ此刑法ヲ以テ處斷ス可キ者ハ此限ニ在  
ラス

第六章 未遂犯罪

第四十九條 此刑法ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ普通刑法  
第一百十一條第一百十二條第一百十三條ニ記載スル所ノ未遂犯罪ノ例ヲ  
適用ス

第二編 重罪輕罪

第一章 反亂

第五十條 軍人黨ヲ結ビ擅ニ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲ス者首魁教唆者及  
ヒ群衆ノ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事スル者ハ死刑ニ處ス  
其指揮ヲ爲シ樞要ノ職務ニ從事スト雖モ情狀輕キ者ハ無期流刑ニ

處ス

諸般ノ職務ヲ司リ若クハ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ資給スル者ハ  
有期流刑ニ處シ其情狀輕キ者ハ重禁錮ニ處ス

附和シテ其事ニ服行スル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五十一條 軍人反亂ヲ爲スト謀リ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ劫  
掠スル者ハ前條ノ刑ニ同シ

第五十二條 軍人前二條ノ罪ヲ犯スニ因リ故ヲニ鎮撫ノ官吏ヲ殺ス  
者ハ死刑ニ處ス

第五十三條 軍人敵ヲ利スル爲メ部下ノ兵隊若クハ軍事ニ關スル土  
地家屋船舶及ヒ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ敵ニ付スル者ハ死刑ニ  
處ス

第五十四條 軍人敵ヲ利スル爲メ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ若ク  
ハ攻守ノ用ニ供ス可キ圖書及ヒ暗號記號ヲ開示シ其他軍機軍情ヲ  
漏洩スル者ハ死刑ニ處ス

第五十五條 軍人敵圍ヲ受クルノ地ニ於テ其司令官ヲ要シ敵ニ降ラ



シメントシテ黨ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

第五十六條 軍人敵前ニ在テ隊兵ノ潰走ヲ誘起シ若クハ其連絡集合ヲ妨害スル者ハ死刑ニ處ス

第五十七條 軍人敵ノ爲メニ兵ヲ募ル者ハ死刑ニ處ス

第五十八條 軍人敵ヲ利スル爲メ軍事ニ關スル家屋船舶及ヒ壘柵兵器彈藥其他軍需ノ物品若クハ戰鬪ノ用ニ供ス可キ道路橋梁森林瀛車電線ヲ毀壞シ若クハ火ヲ放テ之ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

第五十九條 軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥其他軍需物品ノ缺乏ヲ致ス者ハ死刑ニ處ス

第六十條 軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ造言飛語ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

第六十一條 軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虜降人ヲ逃走セシメ及ヒ劫奪スル者ハ死刑ニ處ス

敵ヲ利スル爲メ音信ヲ敵ニ通スル者亦同シ

第六十二條 軍人前數條ニ掲クル所ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサ

ル者及ヒ其豫備ヲ爲ス者ハ各本條ニ照シ一等ヲ減ス

其陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ二等ヲ減ス

第六十三條 軍人前數條ニ掲クル所ノ罪ヲ犯サントシテ其豫備若クハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ自首スル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第六十四條 軍人情ヲ知テ前數條ニ掲クル所ノ犯人集會ヲ爲メ家屋ヲ貸ス者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條 軍人此章ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二

第二章 抗命

第六十六條 軍人命令ヲ下ヌ可キ權アル者ノ命令ニ抗シ若クハ服從セサル者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ

附加ス

第六十七條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者敵前ニ在テハ皆死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ首魁ハ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
其他ノ地ニ在テハ首魁ハ輕禁獄ニ處シ其他ノ犯人ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第六十八條 軍人暴行ヲ爲スニ當リ上官之ヲ制止シ其命ニ從ハサル者ハ二月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第三章 擅權

第六十九條 司令官講和ノ告示若クハ停戰ノ命令ヲ受ケ仍ホ戰鬪ノ所爲ヲ止メサル者ハ死刑ニ處ス

第七十條 司令官命令ニ背キ若クハ權外ノ事ニ於テ已ムヲ得サルノ理由ナクシテ擅ニ兵隊ヲ進退スル者ハ死刑ニ處ス

第七十一條 司令官擅ニ人ヲ募リ部伍ニ充ル者ハ二年以上五年以下

ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第四章 辱職

第七十二條 要塞司令官若クハ要塞特命司令官其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ敵ニ降リ若クハ所轄ノ地ヲ敵ニ付スル者ハ死刑ニ處ス  
堡砦ノ地ニ於テ司令官之ヲ犯ス者亦同シ

第七十三條 司令官野戰ノ時ニ在テ隊兵ヲ率ヒ敵ニ降ル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

若シ其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ降ル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條 將校敵前ニ在テ盡ス可キ所ヲ盡サスシテ遁走スル者ハ死刑ニ處ス

第七十五條 將校其部下ノ兵徒黨犯罪ノ事アルニ當リ鎮定ノ方ヲ盡サ、ル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第五章 暴行

第七十六條 軍人上官ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十七條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ重禁獄ニ處シ其他ノ犯人ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十八條 軍人上官ノ公務ヲ行フニ當リ前二條ノ罪ヲ犯ス者ハ各一等ヲ加フ

第七十九條 軍人上官ニ對シ兵器若クハ兇器ヲ用ヒ暴行ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

上官ノ軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ暴行ヲ爲ス者亦同シ

第八十條 軍人哨兵ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者ハ有期流刑ニ處ス

第八十一條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ重禁獄ニ處シ其他ノ犯人ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ犯人ハ有期

流刑ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシムル時ハ死刑ニ處ス

第八十二條 軍人同等若クハ下等ノ者軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者ハ重禁獄ニ處ス

第八十三條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ輕禁獄ニ處シ其他ノ犯人ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者首魁ハ有期流刑ニ處シ其他ノ犯人ハ重禁獄ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシムル時ハ有期流刑ニ處ス

第八十四條 軍人多衆相集リ暴行ヲ爲ス者首魁ハ二年以上五年以下

ノ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十五條 軍人多衆結合シテ相闘毆スル者首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十六條 軍人俘虜降人ヲ劫奪シ若クハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走ヲ助クル者ハ重禁獄ニ處ス

第八十七條 軍人戰場ニ於テ創傷人ノ衣服財物ヲ褫奪スル者ハ重懲役ニ處シ因テ殺傷スル者ハ死刑ニ處ス

第八十八條 軍人軍用ノ工廠船舶及ヒ軍需ノ物品ヲ貯藏スル倉庫若クハ現ニ戰鬥ノ用ニ供スル家屋壘柵橋梁瀛車電線ヲ毀壞スル者ハ重懲役ニ處シ火ヲ放テ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

第八十九條 軍人敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テ火ヲ放テ露積スル所ノ兵器彈藥軍糧陣營具被服ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス其他ノ地ニ在テハ重懲役ニ處ス

第九十條 軍人兵器彈藥軍糧陣營具被服ヲ棄毀シ若クハ軍用ノ馬匹ヲ殺傷スル者ハ一月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其官給ニ係ル物品ヲ棄毀スル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第九十一條 哨兵衛兵妄リニ銃砲ヲ發スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十二條 軍人操練ノ際若クハ禮砲號砲ヲ發スル時瓦石等ヲ裝填シテ發射スル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

此條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第六章 侮辱

第九十三條 軍人上官ヲ罵詈若クハ侮慢スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

上官ノ公務ヲ行フ時ニ於テスル者ハ一等ヲ加フ

第九十四條 軍人文書圖書ヲ流布シ若クハ多衆ヲ會シ演説ヲ爲シテ  
上官ヲ誹毀スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十五條 軍人哨兵ヲ罵詈若クハ侮慢スル者ハ一月以上一年以下  
ノ輕禁錮ニ處ス

第九十六條 軍人同等若クハ下等ノ者軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ罵  
詈若クハ侮慢スル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七章 違令

第九十七條 軍人哨兵ニ對シ哨令ヲ犯ス者敵前ニ在テハ二年以上五  
年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處  
シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十八條 軍人擅ニ哨兵ヲ變更シ若クハ之ニ違フ者敵前ニ在テハ  
二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處

シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十九條 哨兵擅ニ其守地ヲ離ル、者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處  
ス

其他ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百條 哨兵睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者敵前ニ在テハ二年  
以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處  
ス

其他ノ地ニ在テハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百一條 軍人現ニ軍務ニ服シ擅ニ其地ヲ離ル、者敵前ニ在テハ死  
刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處  
シ將校ハ剝官ヲ附加ス





第二百一十一條 軍人糧食ノ支給ヲ掌リ健康ヲ害ス可キ食料飲料ヲ配付スル者ハ輕懲役ニ處シ因テ死ニ致ス者ハ有期徒刑ニ處ス

第二百二十二條 軍人斥候偵察ノ命ヲ受ケ詐偽ノ報告ヲ爲シ若シハ傳令使命令ヲ詐リ傳フル者ハ五月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二百二十三條 陸軍醫官其職務ヲ以テ疾病傷痍及ヒ身體強弱ノ偽證ヲ爲ス者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス其屬託ヲ爲シタル軍人亦同シ

第二百二十四條 軍人疾病ヲ作爲シ身體ヲ毀傷シ兵役ヲ免ル、トテ圖ル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス  
歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者戰時ニ於テ前項ノ所爲ヲ以テ召集ヲ免ル、トテ圖ル者亦同シ

第二節 海軍刑法

○十五年三月第七十號布告

海軍刑法目錄

第一編 總則

第一章 法例

自第一條至第五條

第二章 刑例

自第六條至第二十九條

第一節 刑名

自第六條至第九條

第二節 主刑處分

自第十條至第十五條

第三節 附加刑處分

自第十六條至第二十五條

第四節 刑期計算

第二十六條

第五節 假出獄

第二十七條

第六節 期滿免除

第二十八條

第七節 復權

第二十九條

第三章 加減例

自第三十條至第三十六條

第四章 不論罪及ヒ減輕

自第三十七條至第四十條

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕 第三十七條第三十八條

第二節 自首減輕 第三十九條

第三節 酌量減輕 第四十條



第五章	再犯加重	第四十一條至第四十二條
第六章	加減順序	第四十三條
第七章	數罪俱發	自第四十四條至第四十六條
第八章	數人共犯	第四十七條至第四十八條
第九章	未遂犯罪	第四十九條
第十章	名稱例	自第五十條至第五十五條
第二編	重罪輕罪	
第一章	反亂	自第五十六條至第七十二條
第二章	辱職	自第七十三條至第八十五條
第三章	抗命	第八十六條至八十七條
第四章	暴行	自第八十八條至第八十九條
第五章	侮辱	自第九十條至第九十二條
第六章	燒燬毀壞	自第九十四條至第九十九條
第七章	擅權	自第一百條至第一百零九條
第八章	違令	自第一百十二條至第一百二十二條

第九章	逃亡	自第一百三十三條至第一百三十五條
第十章	詐偽	自第一百三十六條至第一百三十九條

海軍刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

第二條 此刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスト得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第三條 第九十二條第九十三條第九十八條第九十九條第一百二條第一百四條第一百五條第一百六條第一百七條第一百八條第一百二十七條第一百二十八條第一百二十九條第一百三十條第一百三十一條第一百三十二條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス

教唆若クハ幫助シテ第三百三十一條第三百三十四條第三百三十五條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ軍人ニ非スト雖モ亦軍人ト同シク論ス

第四條 敵前軍中ニ在テ第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十七條第六十八條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス但其豫備若クハ陰謀ニ止ル者ハ第六十九條第七十條ニ照シテ處斷ス

第五條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ依リ人ヲ殺傷シタル者ハ普通刑法第三編第一章ニ照シ重キヨ從テ處斷ス但第五十八條第九十九條第三百二十七條ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

第二章 刑例

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 無期流刑

五 有期流刑

六 重懲役

七 輕懲役

八 重禁獄

九 輕禁獄

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一 重禁錮

二 輕禁錮

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一 剝奪公權

二 剝官

三 停止公權

四 禁治產

五 監視

六 沒收

第二節 主刑處分

第十條 主刑ハ之ヲ宣告ス

第十一條 死刑ハ銃ヲ以テ射殺ス普通刑法ニ從ヒ海軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者亦同シ

第十二條 海軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者ハ海軍卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス

若シ臨時死刑ヲ行フ權ヲ付與セラレタル者アル時ハ其命令ヲ以テ之ヲ行フヲ得

第十三條 前二條ニ記載シタルノ外死刑ノ處分ハ普通刑法第十四條

第十五條第十六條ノ例ニ同シ

第十四條 徒刑流刑懲役禁獄及ヒ禁錮ハ普通刑法第十七條第十八條

第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條ノ例ニ同シ

第十五條 定役ニ服スル囚人ニ工錢ヲ分與スルノ法ハ普通刑法第二

十五條ノ例ニ同シ

第三節 附加刑處分

第十六條 附加刑ハ此刑法ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第十七條 剝奪公權ハ普通刑法第三十一條第三十三條ノ例ニ同シ

第十八條 剝官ハ將校ノ刑トシ之ヲ宣告ス

軍屬其他ノ官吏剝官ヲ附加スル刑ニ該ル時ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第十九條 將校重禁錮ニ處スル者ハ剝官ヲ附加ス輕禁錮ニ處スル者ハ各本條ニ記載シタル外之ニ附加スルヲ得ス

其剝官ヲ附加スル者ハ主刑ヲ減輕スル時ト雖モ之ヲ附加ス

第二十條 普通刑法及ヒ陸軍刑法ニ從ヒ禁錮ニ處スル者ト雖モ下士卒ハ其職役ヲ免セス

第二十一條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其刑期間公

權ヲ行フヲ停止ス

第二十二條 禁治産ハ普通刑法第三十五條第三十六條ノ例ニ同シ

第二十三條 監視ハ普通刑法第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條ノ例ニ同シ

輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者及ヒ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者ハ普通刑法第四十三條ノ例ニ同シ

第二十四條 下士卒ハ此刑法及ヒ普通刑法陸軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ監視ニ付シ若クハ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付ス可キ時ト雖モ監視ニ付セズ

第二十五條 沒收ハ普通刑法第四十三條第四十四條ノ例ニ同シ

第四節 刑期計算

第二十六條 刑期計算ハ普通刑法第四十九條第五十條第五十一條第五十二條ノ例ニ同シ

第五節 假出獄

第二十七條 假出獄ハ普通刑法第五十三條第五十四條第五十五條第

五十六條第五十七條ノ例ニ同シ

第六節 期滿免除

第二十八條 期滿免除ハ普通刑法第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條ノ例ニ同シ

第七節 復權

第二十九條 復權ハ普通刑法第六十三條第六十四條第六十五條ノ例ニ同シ

第三章 加減例

第三十條 此刑法ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ズ

第三十一條 第九十九條第百四條第百六條第百七條第百二十七條ニ記載シタル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重懲役

五 輕懲役

第三十二條 前條ニ記載シタル各條ノ外重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期流刑

三 有期流刑

四 重禁獄

五 輕禁獄

第三十三條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第三十四條 禁錮ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分一ヲ

加フルヲ以テ一等ト爲ス但加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス

禁錮ハ加ヘテ七年ニ至リ減シテ十日以下ニ降スヲ得其減シ盡ス時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下ノ禁錮ニ處ス但重禁錮ト雖モ十日以下ニ處スル時ハ定役ニ服セス

第三十五條 禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

第三十六條 重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ剝官ヲ附加ス

輕罪ノ刑ヲ減輕スル時ト雖モ本刑剝官ヲ附加スル者ハ仍ホ之ヲ附加ス但減シテ十日以下ノ禁錮ニ處スル時ハ此限ニ在ラズ

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第三十七條 不論罪及ヒ宥恕減輕ハ普通刑法第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條ノ例ニ同シ

第三十八條 此節ニ記載シタルノ外特別ノ不諭罪ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

第二節 自首減輕

第三十九條 自首減輕ハ普通刑法第八十五條第八十八條ノ例ニ同シ

第三節 酌量減輕

第四十條 重罪輕罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルヲ得

此刑法ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルヲ得

其酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第五章 再犯加重

第四十一條 再犯加重ハ普通刑法第九十一條第九十二條第九十四條

第九十五條第九十七條第九十八條ノ例ニ同シ

第四十二條 再犯ハ初犯ノ罪此刑法ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ之ヲ論スルヲ得ス

第六章 加減順序

第四十三條 加減順序ハ普通刑法第九十九條ノ例ニ同シ

第七章 數罪俱發

第四十四條 數罪俱發ハ普通刑法第一百條第一百二條第一百三條ノ例ニ同シ

第四十五條 此刑法ノ罪ト普通刑法又ハ陸軍刑法ノ罪ト俱ニ發シタル時亦一ノ重キニ從テ處斷ス

第四十六條 此刑法ノ劊官ヲ附加セサル禁錮ニ該ル罪ト劊官ヲ附加スル禁錮及ヒ陸軍刑法ノ劊官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト俱ニ發シタル時ニ在テハ劊官ヲ附加セサル禁錮ニ處スルト雖モ仍ホ劊官ヲ附加シ軍屬其他ノ官吏ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第八章 數人共犯

第四十七條 數人共犯ハ普通刑法第四百條第五百條第六條第七條第八條第九條第一百條ノ例ニ同シ但此刑法第八十七條第八

十九條第九十條第九十三條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條第一百零一條第一百零二條第一百零三條第一百零四條第一百零五條第一百零六條第一百零七條第一百零八條第一百零九條第一百一十條第一百一十一條第一百一十二條第一百一十三條第一百一十四條第一百一十五條第一百一十六條第一百一十七條第一百一十八條第一百一十九條第一百二十條第一百二十一條第一百二十二條第一百二十三條第一百二十四條  
ニ一等ヲ減ス

第四十八條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ依リ處斷スト雖モ軍人ニ非サル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス但第三條第四條ニ依リ此刑法ヲ以テ處斷ス可キ者ハ此限ニ在ラス

第九章 未遂犯罪

第四十九條 未遂犯罪ハ普通刑法第百一十一條第百十二條第百十三條ノ例ニ同シ

第十章 名稱例

第五十條 軍人ト稱スルハ將官及同等官上長官士官下士卒ヲ謂フ將校同等ノ軍人ハ總テ將校ニ同シ

第五十一條 軍屬ト稱スルハ海軍出仕ノ文官其他海軍ニ從事スル者ヲ謂フ

軍屬及ヒ海軍所屬ノ生徒ハ總テ軍人ト同シ

第五十二條 司令官ト稱スルハ數隻又ハ一隻ノ艦船數所又ハ一所ノ屯營ヲ指揮スル者及ヒ分遣ノ兵隊若クハ數隻ノ端舟ヲ指揮スル者ヲ謂フ

第五十三條 上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂フ同等ト雖モ命令ヲ下メ可キ權ヲ有スル者其部下ニ於テハ上官ニ同シ卒ニシテ臨時下士ノ職ヲ奉スル者其部下ニ於ル亦之ニ準ス

第五十四條 守兵ト稱スルハ儀仗若クハ警戒ノ爲メ守地ニ在ル者ヲ謂フ

第五十五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ノ例ニ同シ

第二編 重罪輕罪

第一章 反亂

第五十六條 軍人黨ヲ結ヒ擅ニ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁教唆者及ヒ群衆ノ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事シタル者ハ死刑ニ處ス其指揮ヲ爲シ樞要ノ職務ニ從事スト雖モ情狀輕キ者ハ無期徒刑ニ處ス

二 諸般ノ職務ヲ司トリ若クハ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ資給シタル者ハ有期流刑ニ處シ其情狀輕キ者ハ重禁獄ニ處ス

三 附和シテ其事ニ服行シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五十七條 軍人反亂ヲ爲スト謀リ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ刑ニ同シ

第五十八條 軍人前二條ノ罪ヲ犯スニ因リ故サラニ鎖撫ノ官吏ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第五十九條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船兵隊港灣堡塞造船所造兵所武庫火藥庫兵器彈藥糧餉其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵ニ付シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十條 軍人敵ヲ利スル爲メ軍事ニ關スル緊要ノ圖書ヲ敵ニ付シ

着シハ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ又ハ暗號軍機軍情ヲ漏洩シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十一條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船屯營造船所造兵所兵器彈藥糧餉其他軍用ニ供ス可キ物件ヲ毀壞シ又ハ火ヲ放テ之ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十二條 軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥糧餉其他軍需物品ノ缺乏ヲ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十三條 軍人敵ノ爲メニ兵ヲ募リタル者ハ死刑ニ處ス

第六十四條 軍人敵ヲ利スル爲メ音信ヲ敵ニ通シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十五條 軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虜降人ヲ逃走セシメ又ハ劫奪シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十六條 軍人黨ヲ結ヒ司令官ヲ要シ敵ニ降ラシメントシタル者ハ死刑ニ處ス

第六十七條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船若クハ兵隊ノ聯絡集合ヲ妨害



シ又ハ兵隊ノ潰走ヲ誘起シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十八條 軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ造言飛語ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十九條 軍人前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサシ者及ヒ其豫備ヲ爲シタル者ハ本條ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

其陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

第七十條 軍人前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ其豫備若クハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十一條 軍人情ヲ知テ前數條ニ記載シタル所ノ犯人集會ノ爲メ家屋ヲ貸シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十二條 軍人此章ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二章 辱職

第七十三條 司令官猶ホ防守スルヲ得キ時ニ於テ敵ニ降り又ハ其

艦船若クハ守地ヲ敵ニ付シタル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條 司令官戰爭ノ際ニ於テ其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ艦船若クハ兵隊ヲ率非遁去シタル者ハ死刑ニ處ス

第七十五條 司令官若クハ艦船ノ乘員其艦船ヲ破亡沈没シタル者ハ死刑ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十六條 司令官其艦船破亡沈没スル時ニ當リ故ナク衆ニ先クテ其艦ヲ退去シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中ニ在テハ有期流刑ニ處ス

三 其他ノ場合ニ在テハ輕禁錮ニ處ス

第七十七條 司令官若クハ艦船ノ乘員其艦船ヲ攔岸坐礁其他危險ニ付シ之ヲ損壞シタル者ハ重禁錮ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十八條 司令官其艦船攔岸坐礁其他危險ノ時ニ當リ救護ノ方略ヲ盡サスシテ之ヲ沈没シ若クハ損壞シタル者ハ一年以上一年以下

ノ輕禁錮ニ處ス

第七十九條 司令官敵ノ船舶ヲ拿捕ス可キ時ニ於テ故ナク其事ヲ爲サ、ナ者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

敵前ニ在テ我船舶ヲ救援ス可キ時故ナク其事ヲ爲サ、ル者亦同シ  
第八十條 司令官若クハ當直士官怠慢ニ因リ敵ヲシテ其艦船ニ乗入ラシメタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十一條 司令官船舶ヲ護衛スルヲ命テ受ケ其船舶ヲ委棄シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中ニ在テハ重禁獄ニ處ス

三 其他ノ場合ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十二條 前條ノ所爲ハ其怠慢ニ出タル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處ス

二 軍中ニ在テハ三月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

三 其他ノ場合ニ在テハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十三條 將校其部下ノ兵徒黨犯罪ノ事アルニ當リ鎮定ノ方ヲ盡サ、ル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第八十四條 軍人職務ニ因リ與リ知ル所ノ軍機若クハ軍事ニ關スル秘密ノ圖書ヲ漏洩シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十五條 司令官内外國ノ船舶擱岸坐礁其他危險ノ時救援ノ請求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セサル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

### 第三章 抗命

第八十六條 軍人命令ヲ下ス可キ權アル者ノ命令ニ抗シタル者若クハ服從セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中又ハ擱岸坐礁其他艦船救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三 其他ノ場合ニ在テハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ  
剝官ヲ附加ス

第八十七條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ  
區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中又ハ擱岸坐礁其他船舶救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ  
在テハ首魁ハ重禁錮ニ處ス其他ノ者ハ二年以上五年以下ノ輕  
禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三 其他ノ場合ニ在テハ首魁ハ輕禁錮ニ處ス其他ノ者ハ二月以上  
二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第四章 暴行

第八十八條 軍人上官ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ一年以上五年以下  
ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十九條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ  
重禁獄ニ處ス其他ノ者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ

剝官ヲ附加ス

第九十條 軍人上官ノ公務ヲ行フニ當リ前二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ  
各一等ヲ加フ

第九十一條 軍人上官ニ對シ兵器若クハ兇器ヲ用ヒ暴行ヲ爲シタル  
者ハ死刑ニ處ス

戰場ニ於テ上官ノ公務ヲ行フニ當リ暴行ヲ爲シタル者亦同シ

第九十二條 軍人守兵ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ四月以上四年以下  
ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者ハ有期流刑ニ處ス

第九十三條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ  
重禁獄ニ處ス其他ノ者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ  
剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ者ハ有期  
流刑ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシメタ

ル時ハ死刑ニ處ス

第九十四條 軍人戰場ニ於テ同等若クハ下等ノ者ノ公務ヲ行フニ當リ暴行ヲ爲シタル者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者ハ重禁獄ニ處ス

第九十五條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ輕禁獄ニ處ス其他ノ者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ有期流刑ニ處シ其他ノ者ハ重禁獄ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシメタル時ハ有期流刑ニ處ス

第九十六條 軍人多衆相集リ暴行ヲ爲シタル者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ其他ノ者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス  
第九十七條 軍人多衆結合シテ相鬪毆シタル者首魁ハ二年以上五年

以下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

第九十八條 軍人俘虜降人ヲ劫奪シ若クハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走ヲ助ケタル者ハ重禁獄ニ處ス

第九十九條 軍人戰場ニ於テ創傷人ノ衣服財物ヲ褫奪シタル者ハ重懲役ニ處シ因テ殺傷シタル者ハ死刑ニ處ス

第五章 侮辱

第一百條 軍人上官ヲ罵詈若クハ侮慢シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

上官ノ公務ヲ行フニ當リ罵詈若クハ侮慢シタル時ハ一等ヲ加フ  
第一百一條 軍人文書圖書ヲ流布シ若クハ多衆ヲ會シ演說ヲ爲シテ上官ヲ誹毀シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百二條 軍人守兵ヲ罵詈若クハ侮慢シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百三條 軍人戰場ニ於テ同等若クハ下等ノ者ノ公務ヲ行フニ當リ